

洋書輸入協会会報

VOL. 20

NO. 2

(通巻226号) 昭和61年 2 月

新 年 懇 親 会

洋販 栗 原 光 輝

前に立つと左右に開く自動ドアよりも、にっこりとして扉を押すネービー・ブルー外套のレディに魅せられて、わざわざ右寄りの入口から東京プリンスホテルには入る。二階へ上がるエスカレーターの左右に、ずらりとお迎えの人垣ができていますので、盛大な新年会になったものだと感じ入ったが、当協会員としてはチト品が無い。案内板を見たら、我等よりも荒事を業として……つまりは稼ぐ額も桁が違う業界出迎えの若い衆であった。

エスカレーターが切れるところで、年一回のことだが、軀が記憶の方角にターンしようとしたら、今年は矢印の方向が違っていた。大きなマグノリヤ・ホールへ誘導される。柱が無くて明るく気分が良い。部屋の料金は昨年までのと変わらないとのことだが、これは文化厚生委員長長の三洋出版さんの努力、特に伊部社長の人柄に負うところだと思う。

会費を予め銀行振込としたので受付の渋滞が減った。事務が軽減されて担当の文化厚生委員の皆さんに、早く会場には入って頂けるのがよい。お世話を頂いて、さてこの方々が中に入る頃は、飲み物の底が付き、皿には白

く固った脂が広がっているのでは申し訳がない。喰い物の恨を商売の方で一年にわたって晴らされては、コワイことですぞ。それでも当日会場で会費を支払われた方が87名もあった。次回は前払いがもっと徹底されてよい。

定刻六時をやや過ぎる頃、セレモニーが始まる。お屠蘇気分で新聞もろくに読まず、テレビは正月のタケちゃんに笑い、ラグビーに興奮して、名士にはとてもお目にかかれない大方に、飯泉理事長は莊重な声で、今年の日本の経済成長率は、円高基調の下3.3%に落込むだろうと、厳しい見通しを語られる。持ち時間5分では足りませんよと、こだわっておられたが、短かく集約して発表される方が、ポイントを解釈し易い。今年は総会にも出席されると約束しておられた。小林重役が懇談会の意向を伝えてお誘いしたわけだが、長時間熱っぽい議論がお好きと勢い込んでおられるから、ご出馬要請の北尾社長さんに、特によろしくお願いしなければならない。

ついで、紀伊國屋の松原社長が、洋書輸入協会は、親睦だけでなく、業界団体であるとの認識に立って、内部に難問を抱えて利害相反することもあるが、お互い譲

新年懇親会…………… 1	おしらせ…………… 3	外国出版社紹介 No115 …… 6
理事会報告…………… 3	総代理店ご案内…………… 3	Book Review No111 …… 6
文化厚生委員会だより	洋書輸入協会史 (6)…………… 4	Book Review No112 …… 7
ゴルフ 72会 納会コンペ…………… 3	来日外人名簿…………… 5	広 告…………… 8

り合い、外部に対しては要路に認識を深めて頂くこと、洋書マーケットのパイを大きくする努力が必要と挨拶された。

乾盃の音頭は、国際書房服部会長、九十一歳。矍鑠、垂直な背景、朗々たる声量、恍惚の年齢を知らず、毅然、このようにエネルギーを吸収されたのか、御曹子の貞夫氏はこの日欠席。御尊父の殊の他気になるのは息子さんの健康のことであろう。

盃を挙げ終えていざ料理へ。出席人数も多かったが、テーブル上の料理の数と量も、かなり潤沢だと見て取ったから、会員一同割り合いゆったりと構えておられる。人と料理の、微妙なバランスが或る線を下回ると、東西文化交流の担い手、情報伝達者のプライドを持つインテリ集団も、急に品が落ちてくるから、関係者は予算をふまえてのホテルとの交渉に苦心する。料理の本の専門の三洋さんには、是非、文化厚生委員長を続けて頂きたい。今年もコック長が特別に気を使ってくれたようである。

新年にエッセンを充分にとった和氣藹々のスタートが業界には必要。洋書仕入れの支払いに、約束手形を振出していたら、半分は倒産するぞと脅かされているメンバーも、アルコールで神経を和ませ、頬の肉をゆるめて友好ムード。この年も展開される熾烈なビジネス・ウォーはしばし休戦である。

出版社の代表に女性が増えたおかげで、モノクロ基調であった会場が年々色調豊かになってくる。結構な事。どうだろう、各社の美人 OL を登場させて、平生電話を取り継ぐ声の主を、お互い紹介し合ったら。友好気分は更に盛り上ることと思うが。

メクレンブルグの鈴木さんには、毎度のことながら、写真を感謝。この原稿を書いているところへ、事務局の柴田さんから、記念のスナップが届いた。構図がびしょと決って素晴らしい。プロの腕前である。

パーティでのお互いの歓談は、何しろ大勢の盛況であったから、全員総当たりという訳には参らなかったであろうが、「今年もよろしく」の意は、全体で作り上げた当日の和やかな階調で知るように、充分伝えられた筈である。

閉会の挨拶は、文化厚生副委員長・洋販の渡辺社長。最後の締めは、やはりこの人と、渡辺社長の提案で、相良顧問が三本締め、「イヨーッ」と云う声の質と、手を拡げる絶妙のタイミングが87社215名出席の盛会の幕を引いた。

準備をされた方々のご努力に深謝しつつ擱筆。



理事会報告

1月16日(木)

(一) 文化厚生委員会

1月9日(木)東京プリンスホテルで開催された新年懇親会には、87社210名および招待者ほか5名の出席があった旨報告された。

(二) 調査開発委員会

委員を委嘱した25社全員から承認の返事のあったことが事務局から報告された。第一回の委員会を1月29日(木)2時から開催することとし、委員会運営の基本方針について討論した。また、委員会の発足を会員に知らせ、希望をつのることとした。

(三) Culcon '86

7月に東京で開催される Culcon '86には、米国で出版された日本関係書500～600種の展示会が開催されることが報告された。

(四) 英国出版社代表团

2月13日(木)開催される英国出版社代表团との話合いに希望者の参加をつのったところ、3社から申込みのあったことが事務局から報告された。

(五) その他。

文化厚生委員会だより

ゴルフ 72会 納会コンペ

第40回72会納会コンペが、昨年12月19日上武 C. C. に於いて、5組19名参加により行われました。二・三日前より猛烈な寒波に見舞われ、特に午前中のグリーンはコンクリートのような硬さに悩まされ、大半のプレイヤーが大叩きをする中で、丸善 OB の石田氏が好スコアで優勝、B.G. D.C. N.P. を併せ四冠王に輝きました。

これで第31回～40回の72杯取切り戦・資格者も出揃いました。有資格者は、相良、和田(茂)、手塚、川原、山川、河辺、上杉、後藤、西山、石田の各氏です。3月29日上武 C. C. (予定)で行われますので、優勝を目指し練習に励んで下さい。

		Net	H'dcp
優 勝	石田義起(丸善 OB)	69	9
準優勝	片倉弘人(カタクラ)	76	20

3 位	後藤明美(C マクミラン)	77	25
4 位	村山新吾(ゲーテ)	78	14
5 位	手塚 隆(富士洋書)	81	11

ベストグロス 石田(78)

D.C. 石田、石田

N.P. 石田、中村 勲(国際書房)

次に72会発足以来13年間の永きにわたり会の発展に御尽力下さいました幹事の村山氏が、今回をもって後進に道を譲ることになりました。永い間本当にありがとうございました。次回より、鶴氏(東亜ブック)、上杉氏(UPS)コンビで開催されます。会員皆様の御協力をお願い致します。

(手塚 隆 記)

おしらせ

次の通り移転通知がありましたのでおしらせします。

新住所：

インターナショナル トムソン ブックス

東京事務所

〒102 千代田区飯田橋4-5-12

岩田ビル7 F

☎(03)221-1385/6

次の通り Fax 設置の通知がありましたのでおしらせします。

国際書房 Fax：(03)291-1171

総代理店ご案内

(株) 紀伊國屋書店

☎(03)354-0131

World Microfilms Publications—UK—

Selected Titles in the fields of Mediaeval and Renaissance Studies, Literature.

洋書輸入協会史 (6)

洋書輸入協会顧問 相良廣明

7.8 海外出版物輸入協会定款

昭和21年8月21日(休)の創立総会において、満場異議なく決定した定款は全文が残されているが、その各条につき、昭和16年3月6日より効力を生じた海外出版物輸入同業会規約と比較し、重要と思われる部分を書き出すと次の通り。

(注) アンダーラインは筆者

第一章 総則

- 第一条 本会ハ海外出版物輸入協会 (Foreign Publications Importers Association) ト称ス
- 第二条 本会ハ出版物ノ輸入ヲ業トスル者ヲ以テ組織ス
- 第三条 本会ハ貿易庁ノ指令ニ基キ海外出版物ノ輸入ニ関スル一切ノ業務ヲ代行スルト共ニ関係諸機関ト密接ナル連絡ヲ保チ我国文化ノ向上発展ヲ図ルヲ以テ目的トス

第二章 役職員

- 第六条 役員ノ任免ハ貿易庁ノ承認ヲ受クルモノトス

第三章 事業

- 第十一条 本会ハ左ノ事業ヲ行フ
- 一、貿易庁ノ指示スル条件ヲ以テスル海外出版物ノ輸入及引渡ニ関スル事項
 - 二、前項ニ附随スル運送、保管其他必要ナル事項
 - 三、貿易庁ノ諮問ニ対スル報告、答申ニ関スル事項
 - 六、販売価格ノ統制ニ関スル事項

附則

- 第廿六条 本定款ハ貿易庁ノ承認ヲ得タル日より之ヲ施行ス
- 第廿七条 第二条ノ海外出版物ノ輸入ヲ業トスル者トハ海外出版物輸入同業会ノ会員ヲ言フ
本定款ノ施行ニ依リ海外出版物輸入同業会ハ解消スルモノトス

(本定款ハ昭和廿一年八月廿一日附二一貿第一一四二号ヲ以テ承認サル)

7.9 定款の特徴

第一は、会の目的が、昭和16年の前規約においては、「国策ニ即応良書・良誌ノ輸入ヲ図リ販売価格ヲ統制スル」ことにあったが、この定款では「貿易庁ノ指令ニ基キ海外出版物ノ輸入ニ関スル一切ノ業務ヲ代行スル」と大きく変更されている。即ちこの定款は、貿易庁の輸入代行機関としての性格を協会に持たせるためのものであり、そのことは第三章の事業にもはっきりと規定されている。

第二は、前規約においては「関係官庁」と表現されていたのが、この定款においては「貿易庁」と明記されていることが示すように、官庁の統制下にこの団体が置かれていることは戦前も戦後も変りがない。

第三は、「販売価格ノ統制ニ関スル事項」は、前規約においては目的であったが、定款においては目的から外され、第十一条の事業の中に挙げられている。即ちこの時期においても「販売価格ノ統制」が、同業団体の重要な事業であるという認識が官庁に存在していた。

10 協会会員名簿と役員名簿

定款に添附の会員名簿には、次の14社が掲載されている。

名 称	代表者氏名
丸善株式会社	荒 川 實
株式会社教文館	瀬 川 寿 郎
株式会社国際書房	服 部 正 喬
福本書院	福本初太郎
合資会社バート商会	弘 田 親 輔
株式会社南江堂	小立鉦四郎
三省堂興業株式会社	矢 野 誠 三
株式会社三越	松田伊三雄

株式会社金原商店	金 原 作 輔
山川商会	山 川 隆 雄
東光堂書店	石 内 茂 吉
大竹書店	大 竹 孝 吉
日本出版配給株式会社	永 井 茂 弥
ルーペルト・エンデルレ書店	ルーペルト・ エンデルレ

役員は次の通り

理事長 丸善株式会社	代表者 荒 川 實
理 事 株式会社教文館	〃 瀬 川 寿 郎
〃 株式会社国際書房	〃 服 部 正 喬
〃 福本書院	〃 福本初太郎

このときの会員名簿を検討してみると、昭和16年3月の同業会創立時の19社と比較し、6社が姿を消し、1社（日本出版配給株式会社）が新規に加わっている。また三省堂商事株式会社が三省堂興業株式会社に、欧亜書房がルーペルト・エンデルレ書店に名称変更されている。

7.11 貿易庁への承認申請書

これは重要なものではないが、今日ではその文体が珍らくなっているのです、若い人達のために書き留めておこう。

海外出版物輸入協会定款並ニ役員選任承認ニ関スル申請書

東京都京橋区京橋二ノ八 丸善内
海外出版物輸入協会
発起人総代 丸善株式会社
取締役社長 荒川 實

本協会ハ昭和廿一年八月廿一日ノ創立総会ニ於テ定款ヲ可決次テ役員ヲ選任決定仕候（つかまつりそうろう）

就而（ついては）同定款第六条ニ基キ貴庁ノ御承認ヲ得度（えたく）定款、役員名簿、議事録相添（あいそえ）此段及申請候也（このだんしんせいにおよびそうろうなり）

昭和廿一年八月廿一日

貿易庁長官 塚田公太殿

7.12 戦後加入会員第一号の日配

理事会議事録の昭和21年8月30日（金）の項に、日配（日本出版配給株式会社）入会申込みの件とあり、審議の結果承認され、翌8月31日に日配海外課長田中氏（田中四郎氏のことか？）へ通告、9月5日に申込金1,000円、本年度臨時会費150円が払い込まれたと追記されている。

日本出版配給株式会社は、昭和16年（1941）5月5日に創立され、全書籍・雑誌の一元配給を引き受けていたもの。これは昭和15年（1940）12月19日設立の社団法人日本出版文化協会（これは昭和17年3月26日に設立を認可された特殊法人日本出版会へと発展的解消をする）と、昭和16年10月27日創立の日本印刷文化協会、洋紙共販会社などと共に、出版用紙配給割当を始めとする一連の出版業界統制体制を実現するためのものであった。

従って戦時中には、海外出版物輸入同業会もこれと接触を持っていたが、それが戦後となり、日配側に洋書輸入販売をも手掛けようという計画が持ち上って、海外課を作り、海外出版物輸入協会が貿易庁の代行機関として認可を受けるに際して、協会への加入を求めてきたものである。

このようにして同業会は協会へと改組し、貿易庁の代行機関としての認可を受け、いよいよ輸入再開へ向けて始動するが、なお前途は多事多難で、再開までには幾多の障害に遭遇することになる。

（注）今回は元丸善田辺 寛氏の御教示を受けました。

（続く）

来 日 外 人 名 簿

1月中旬 Mr. Ian Williams, Overseas Sales Manager,
Harrap Ltd., London
〃 Mr. Amrit Sharma, Marketing Manager,
UBS Publishers' Distributors Ltd.,
New Delhi

Harvard Business School Press

Boston, Massachusetts 02163

ハーバード ビジネス スクール 出版局は、1950年代にかけてかなり積極的に出版をしていたが、70年ごろに一旦活動を休止した。83年から84年にかけて、ビジネス スクールは75周年を迎えたのを機会に、その記念事業の一環としてこの出版局を再開した。

新しいディレクターとして、ビジネス・スクールのアシスタント・ディーンである。Mrs. Joanne F. Segalが就任した。大学出版局の独立性とアカデミックな水準を保つ一方で、商業出版社のもつ、マーケティング力と流通力を併せもちたいと意欲的である。

ハウ・ツウものや教科書や、ケース・ブックといった教材をはなれて、更に貢献度の高い出版、即ちプロフェッショナルなマネジャー、ビジネス・アカデミックス、リサーチャー、学生諸氏のために秀れたリサーチの結果や重要な経営学的考え方を伝える出版物をつくりたい、と抱負を語っている。

因みに84年12月の発表と同時に刊行した F. W. McFarlan 編集の The Information Systems Research Challenge, B. R. Scott と G. C. Lodge 編集の U. S. Competitiveness in the World Economy および刊行中の三冊は、75周年記念事業の際催された研究ゼミナールで使用されたペーパーコレクションである。

1985年には、10～12冊の新刊を出版し、1990年までの5年間の内に、毎年の新刊点数を20～30冊までにしたいとのことであった。

また、Division of Research で過去に出版され、最近までハーバード大学出版局で販売してきたいくつかのタイトルも、順次手元にひきとる計画だとのことである。

HBS Press は、ハーバー アンド ロウ出版社 東京事務所が代表している。

Book Review No.111

「東京ブックマップ」 新書版 250ページ

¥780 書籍情報社(03)―293―7327

大手取次ぎを通さず自費出版に近い形で出されたものだという。1985年10月に刊行以来5刷目15,000部程売れているとのことだ。本書は5つのパートに分かれる。

Part 1. 書店街マップ 神田：日本橋・銀座：新宿：渋谷：池袋：高田馬場：早稲田：本郷の9地区とそれ以外の地区、各書店には住所、電話番号はもちろん1行コメントがつけられている。

Part 2. 大書店ガイド 300坪を超える都内10書店ガイド、各書店のフロア構成図がつけられどのフロアにどんなジャンルの本が並べられているかを案内、ほかに数行のコメントがつけられている。

Part 3. 専門書店ガイド 新刊書店、輸入書籍店、古書店という形態にとらわれず、専門性が高いと思われる

書店 193店を紹介。我々の業界もほとんどこの中に含まれ、本好きにとっては最も魅力ある部分。Part 1と同じく各書店につけられた番号をこのPartでもつけてあるので、交互に利用する事が出来て便利。

Part 4. 大図書館ガイド 利用資格制限のない165館をジャンルごとに分類、思いもかけぬ図書館があったりする。資料については200字程度のコメントがつく上に所在地への略図がついている。

最後に **INDEX** がついて専門書店(書店名)、専門図書館(図書館名)、専門図書館(項目)の3つに分けられているが、本書を更に使いやすくするには、総合的に引きやすい **INDEX** にするため、もう一工夫欲しいところ。

(教文館 K. W. 記)

ザ・言語楽 (ザ・げんごがく)
レオナルド・リングウィスト 著 225頁

大修館書店 定価1,200円

1985年4月15日初版発行

© L. Lingwist 1985

最近は何となく文字のあるところ必ずと言ってよい程カタカナの部分がある。外国語の固有名詞や単語ばかりでなく、日本語と英語の組合せ語も多く出現してきた。広告や書名などに英語を面白がって使っているように見受けられるが、うっかりすると英語を学びつつある若い人達にとって障害になるのではないと思われるものも多い。次は車内広告の一例である。「これから二人で 乃木坂 ing」は多分乃木坂近辺でデートすると言った意味であろう。

最近ではまた、「ザ」がさかんに組合わされて用いられるが、「あとがき」の中で、この本の著者は、英語の the がもつ「唯一の」とか「決定版」といった意味あいを、使う側が無意識のうちに考えている傲慢さを伴っているのではないかと心配する。例えば、「なるほど! ザ・日本人」、「名調子ザ・演歌」、等、またあたりを見回すと切りがない、「ザ・三河屋定食 650円」、「プレイ・ザ・将棋」等々だが、「ストップ・ザ・大乃国」になると全く害あって益なしであると指摘する。「ア・メイキング・オブ愛情物語」など不定冠詞まで現れているようで、まことに空おそろしいと言う著者に全く同感である。

ことばの乱れとか、表現の貧困といったことがよく話題になる昨今であるが、著者は、これらの現象を精神や認識のあり方、美意識等の乱れや貧困を示す顕著な症例の一つになり得るとしてその憂いを訴えている。

「ザ・言語楽」は「現在活躍中の言語学者で、大学で教鞭をとる三名の先生の集団」による共同執筆で、日本語プラス世界の主要語をテーマにした楽しい(?)言語文化雑学(エッセイ)で一読の価値ありと感じた。「それぞれ専門分野と興味を異にする三人が、テーマを分担して書いた三重奏の『楽曲』」と自ら評しているように、三章各章がそれぞれ違った雰囲気をもって書かれている。

第一章は国語(日本語)がテーマでかなりくだけた書き下しで、その一節の題名の如く「半分まじめ」な(笑)言語学辞典は滑稽だが、やはりまじめな執筆者が書いたものだけに若干とって付けたような冗談がないでもない。では、皆さんは、「金玉」を何と読みますかな? 「はい、キンギョクです。」

第二章は音声学的に色々な言葉をとらえており楽しく読める。「幼児のことば」や「チガカッタ ウザッタイ」など、私達も幼少のみぎり経験がある言葉である。「カニニクワレタ」などの言葉の世界は面白い。

第三章に入るとかなり学究的(?)に世界の主要語を対照し、話を進めているので、言語学に興味の薄い向きには若干退屈な部分もあると思う。ただし、最後の締めくくりで紹介してある、アルメニアの山岳作家 ヴァフタング・アニャン(1905)の短篇集「山道にて」からとったと言う「蛇物語」は日本ではあまり知られていない話で、堅くなった気分をほぐしてくれるのに充分だ。それは人間の心を正しく読みとり人間の友人となった大蛇が、裏切った人間に復讐する11ページに亘る物語である。

さて、日本語の特徴であり、その美しさの象徴でもあった女性語も最近殆んど聞かれなくなり、男女差が失われつつある現代にあって、国語をもう一度見直す時間をもつことは意義深いことであると考え。また、しっかりと国語を咀嚼した上で外国語も学び、使うことが必要ではないだろうか。その意味からも本書は、非専門家が楽しく読める言語学エッセイとして価値があると考えた。

1月15日の朝日新聞に「ジャパニング(米国)」の記事を読んで、今や米国で日本文化が渦巻き、ジャパニング現象が起こっているこの時代にこそ、我々は美しい日本語保存のためにも、真面目に日本語を見直さなければいけないのではないかとつくづく感じた次第である。

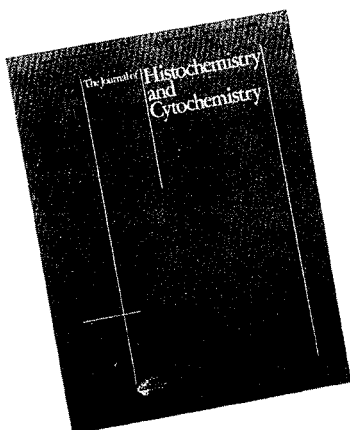
(RA 記)

The Histochemical Society, Inc.

組織化学と細胞化学専門誌

JOURNAL OF HISTOCHEMISTRY AND CYTOCHEMISTRY

Editor: Paul J. Anderson, M.D.



構成

1. オリジナル研究報告
2. 進行中の研究についてのブリーフ・レポート
3. 評論
4. テクニカルノート
5. 編集者への手紙

組織化学・細胞化学の手法の発展・評価及び 応用に貢献するユニークな学術誌

本誌は現在、以下の出版物或はデータベースにその抄録又は索引が掲載されています。

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| ●Index Medicus | ●Chemical Abstracts |
| ●Biological Abstracts | ●Biosis |
| ●Current Contents | ●Medicine database |
| ●Science Citation Index | |

月刊

年間購読料

法人・図書館 ¥54,400/年 (¥74,500/年 Air Mail)

個人 ¥37,900/年 (¥58,000/年 Air Mail)

■1986年「円」価格は、版元の都合で変更されることがありますので、予めご了承下さい。

■ご注文・お問い合わせは直接本社「代理店業務部」までお願いいたします。■カタログご請求下さい。

<日本総代理店>

ユサコ株式会社

-USACO®-

本社 〒105 東京都港区新橋1丁目13番12号 電話 (03) 502-6471 (代表)
大阪営業所 〒530 大阪市北区堂島1丁目2番2号 日昭ビル 電話 (06) 344-6624 (代表)
名古屋営業所 〒461 名古屋市東区榑木町3丁目63番地 電話 (052) 931-2601 (代表)
筑波営業所 〒300 土浦市富士崎1丁目7番21号 和光ビル 電話 (0298) 23-1773 (代表)

昭和61年2月 通巻第226号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

〒103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル612号室 電話 271-6901

〒530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル 電話 371-5329